

## 10 議員提出議案に対する反対討論

日本共産党の村岡正嗣です。党県議団を代表して、議第4号議案「年金制度抜本改革の全体像を早期に示すことを求める意見書」に、反対討論を行います。

意見書案は、『『社会保障と税の一体改革』であれば、年金制度の改革案と消費税の増税案は一体で議論されるべき』との主張の下、年金制度抜本改革の全体像を早期に示すよう求めています。

我が党は、現在の年金制度の下での深刻な無年金、低年金問題の解決のために、最低保障年金制度の創設や年金受給資格の短縮など一貫して提言、主張しているところですが、年金財源については、低所得者に負担の重い逆累進性の高い消費税に求めるべきではないと考えます。年金制度の改革案

2012年3月26日

と消費税の増税案を一体で議論するならば、低所得者に対して、年金制度をよくするには消費税率をもっと上げるしかない、更なる引上げが嫌なら年金を削ることになる、と迫る議論につながりかねません。

我が党は、年金の財源は、大型開発や軍事費をはじめ税金の無駄遣いの一掃と、富裕層、大企業優遇の不公平税制の見直しなどに求めるべきであり、消費税に頼らずに社会保障を再生・拡充することは可能と考えます。

よって、年金制度改革案と消費税増税案は一体で議論されるべきだとする本意見書案に反対するものです。

以上です。(拍手起こる)